

こずかた

No.153

令和5年12月1日発行
盛岡市教育研究所
☎019-651-4111 (内7371)
印刷/セーコー印刷 651-3606

そうだったのか!! 市立高校

盛岡市立高等学校 校長 北田 義徳



校長の北田義徳と申します。県立大野高等学校から参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

このたび市立高校(以下、「本校」)の職員になって初めて知った「本校の特色」がいくつかありましたので、読者の皆様にご紹介したいと思います。

○ 生徒数の多さ……少子化の中、本校は2年連続で募集定員を確保し、今年度策定された「第三次盛岡市立高等学校教育改革基本方針」により、今後10年間の1学年7クラス維持が決定しました。多くの級友と切磋琢磨

し合いながら勉学や部活動等の特別活動に勤しめることは、多感な青春時代において何ものにも代え難い貴重な経験となります。

○ 豊かな教育環境……雄大な岩手山を間近に望む上太田地区に、東京ドーム1.7個分の広大な敷地面積と、専用の野球場やサッカー場、陸上競技場等を有する素晴らしい教育環境の下、生徒は毎日のびのびと高校生活を謳歌しています。

○ 活発な部活動……本校には、15の運動部と14の文化部があります。今年度9月に行われた県新人大会陸上競技で、本校は女子が2年連続、男子が本校初の学校別優勝を果たしました。また、男子新体操部は、同月鹿児島県で行われた全国ブロック代表新体操男子団体選手権大会で団体第8位に入賞しました。さらに、男子サッカー

部が選手権県予選の初戦で優勝候補の花巻東を2対0で破るなど、県内屈指の大規模校である本校の台頭は今後さらに進んでいくものと期待されます。

○ 高大連携……岩手大学教職大学院総合実習の一環として、大学院生と本校の教員志望の3年生が懇談し、教員という職業

に対する考察をともに行いました。本校出身の教員が今後、市内に増えていくことを願います。

むすびに、本校がこれからも地域から選ばれる高校であり続けるよう、魅力を発信していきますので、今後ともご理解、ご協力をお願いします。

こずかた写真館②

教師を目指して

9月14日、盛岡市立高校では、教員志望の3年生と岩手大学教職大学院の院生による懇談が行われました。懇談では昨今の教育課題や教職の魅力、大学生活等について意見が交わされました。

市立高校では、7月にも近隣の公立小中学校でインターンシップを実施しており、他高校にはない魅力あるキャリア教育を展開しています。



令和5年度諸調査結果について

児童生徒の実態を踏まえた授業改善を

先生方自身の主体的・対話的で深い学び

全国学力・学習状況調査

《平均正答率の状況》

盛岡市の平均正答率は、小中学校の国語、小学校の算数で全国平均を上回ったものの、中学校数学・英語で全国平均を下回る結果となりました【表1】。特に英語は、全国的にも低い数値となっております。

平均正答率	小6		中3	
	盛岡市	全国	盛岡市	全国
国語	72 (107)	67.2	71 (102)	69.8
算数 数学	64 (102)	62.5	50 (98)	51.0
英語			40 (88)	45.6

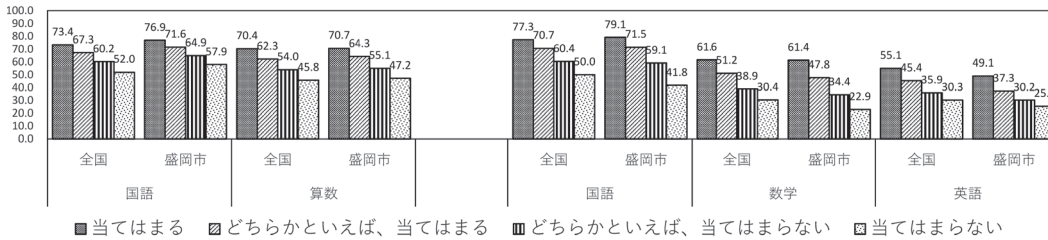
()内の数値は、全国平均正答率を100とした時の割合を表す

【表1】 全国学力・学習状況調査 各教科平均正答率 (全国比)

質問番号	質問事項
小学校 33	5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
中学校 37	

【小学校】

【中学校】



【表2】 児童生徒質問紙調査のクロス集計 (全国と盛岡市の比較：数値は正答率)

《質問紙調査の分析》

盛岡市学力向上推進事業における重点取組である「児童生徒一人一人に資質・能力を育成することを目指した授業改善」を実現する手立ての一つとして「主体的・対話的で深い学びを促す教師の関わり」が挙げられています。児童生徒質問紙調査の回答の割合と正答率をクロス集計すると、一定の関係があると判断できる質問項目が見つかります【表2】。全国と盛岡市を比較すると、全国、盛岡市ともに学力との相関がみられることがわかります。課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童生徒ほど正答率が高いことがわかり、盛岡市だけではなく、全国でも同じような傾向となっており、このことから、児童

生徒の主体的な学びを促す教師の関わりは重要だと言えます。「主体的・対話的で深い学び」を手立てとし、児童生徒が能動的に資質・能力を身に付けることができるよう授業改善を図っていく必要があります。今回は、紙面の関係で1つの質問項目のみ取り上げましたが、他にも授業改善のヒントとなる質問項目があります。各学校で再度、質問紙調査の結果を全職員で共有し、どの質問項目に課題があるのか、分析をもとに授業改善が推進されることが期待されます。

標準学力検査 (NRT)

標準学力検査 (NRT) における、本市の児童生徒の状況は、下のとおりです【表3】。本市の偏差値平均は、小4の国語、算数、中2の国語で全国平均(50)を上回りましたが、中2の数学及び英語では、全国平均をやや下回る結果となりました。

各校では検査結果を踏まえ、「今後の指導の方向性」について明確にし、当該学年・当該教科に限らず、校内体制で授業改善につなげていく必要があります。検査結果を分

	教科	偏差値平均
小学校	国語	53.2
	算数	51.7
中学校	国語	51.3
	数学	49.1
	英語	48.9

校種	教科	小問内容 (大問番号 - 小問番号)	通過率 (盛岡市)	通過率 (全国)	誤答率	無答率
小学校	国語	報告文・まとめを書く (8-7)	15	12	51	34
	算数	二等辺三角形の説明 (19-2)	9	12	51	40
中学校	国語	単語の類別・助動詞 (13-4)	22	22	64	14
	数学	2つの円野中心・考察 (16-2)	11	13	80	60
	英語	英作文・過去形 (18-2)	13	21	53	34

【表3】 標準学力検査 (NRT) の検査結果

析する際、様々な面から行うことが考えられますが、今回は児童生徒の「つまずきの要

因」について盛岡市の傾向を分析しました。前ページに全国と比較して通過率の低い小間と無答率の高い小間についてまとめました【表3】。この結果から、大まかに言えることは、授業で獲得した知識及び技能を活用して説明したり、まとめたりすることを苦手とする児童生徒が多いということです。このことについて校内で共通理解を図り、授業改善を推進していくことが求められます。

課題改善の方向性について

諸調査の結果から得られた課題をどのように解決していけばよいのでしょうか。以下に、盛岡市学力向上推進事業及び算数・数学と英語の取組を掲載しますので、再度、御確認いただき、授業改善に活用していただきたいと考えます。

《盛岡市の重点再確認》

盛岡市教育委員会では、学力向上推進事業として、「小中一貫教育」を土台としながら次の2点を課題解決に向けた手立てとして示しています。

「主体的・対話的で深い学びを促す教師の関わり」

1 学習課題（問題）を主体的に捉えるとともに、解決の見通しをもつことができればよいとする。

2 課題解決の過程において、考えを深める学びを保障する。

3 課題解決の過程を振り返って、学んだことを自覚し、達成感や学習内容の有用感を得られるようにする。

「誤答・無解答に至るつまずきの要因を探る」

1 諸調査の誤答や無解答の要因を分析し、指導に生かす。

2 各学校における調査結果の分析を活用した指導改善計画を、全職員で共有し、実践を進める。

なお、これらは、岩手県学校教育指導指針の「確かな学力育成プロジェクト」の中で「日々の授業や諸調査から明らかになった児童生徒の『つまずき』に着目し、児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすことを通して、児童生徒一人ひとりの資質・能力の向上を目標とする。」と

同様の内容が述べられています。

このことから、今後、学力向上を推進していくためには、児童生徒の実態を的確に把握し、どのような授業を行えば児童生徒の学力が向上するのかということを日々授業実践で明らかにしていかなければならないと考えます。まさに、「先生方一人一人の主体的・対話的で深い学び」が求められているのではないのでしょうか。

諸調査の結果を踏まえ、教育研究所の研究員研究では、次のように取組を進めています。

《算数・数学の研究員研究》

単元や題材など、内容や時間のまとまりを意識した指導計画を大事にすることとし、単元の指導構想に当たっては、次のとおり進める。

ア 『指導と評価の一体化』

のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）に示されている考え方や手順等に沿って単元の評価規準を作成する。

イ 単位時間の目標は、どのような数学的な見方・考え方を働かせ、どのような数学的活動を通して、どのよ

うな数学的に考える資質・能力を育むのかという形で具体的に設定する。併せて、算数・数学の問題発見・解決の過程における重視する過程を明確にし、その場面の言語活動の充実を図るために、数学的に表現し伝え合う活動を工夫する。

ウ 単位時間の目標及び各単位の時間で重視する算数・数学の問題発見・解決の過程に応じて、評価項目の精選と、各時間における評価場面を精選し、「指導と評価の計画」として整理する。

《英語の研究員研究》

中学校英語科における、令和4・5年度に実施された諸調査の結果から明らかになった主な課題は、「聞くこと」の領域では、目的・場面・状況に応じて聞き取ることや、一度で概要や要点を聞き取ることで、「読むこと」の領域では、文と文の関係を正確に読み取り、短い文章の概要を捉えること、「書くこと」では「読む」ことをもとに自分の考えを「書く」などの技能統合的な力が求められる問題での無回答率の高さであった。「思考力・判断力・表現力等」を育成するための指導が引き続き大き

な課題であることには変わりはないが、同時に、基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な定着を実現する指導の充実も一層求められている。そこで、今年度の英語科では、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やり取り・発表）」、「書くこと」の言語活動を通して、生徒が「伝えたい内容」と「内容を表すための英語表現」の両方について思考・判断するなど、実際に英語を使いながら語彙や言語材料の定着を図る授業改善例を提案することで、盛岡市の中学校英語科における学力向上を目指している。

《盛岡市教育研究発表会で》

ここに紹介いたしました算数・数学及び英語の取組については、令和6年1月5日金に行われる盛岡市教育研究発表会で実践事例を踏まえて報告されます。児童生徒の確かな学力の保障に向けた解決策の1つとして是非、発表会へ参加して研究成果を御確認ください。また、同じ課題を抱える先生方の情報交換の場として、たくさんの方々の御参加をお待ちしております。

「令和5年度に開講した17講座と特設講座」

令和5年度
盛岡市教育研究所公開講座

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| ① ICT活用講座Ⅰ（授業活用） | ⑩ ICT活用講座Ⅱ（学校における活用推進） |
| ② 教育相談基礎講座 | ⑪ コミュニティ・スクール講座 |
| ③ 盛岡の先人講座 | ⑫ 盛岡の先人ウォーク体験講座 |
| ④ 小学校授業づくり講座（国語） | ⑬ 小学校授業づくり講座（社会） |
| ⑤ 石川啄木講座 | ⑭ 生徒指導講座（不登校） |
| ⑥ 自殺予防教育講座 | ⑮ 特別支援教育講座Ⅱ |
| ⑦ 小・中体育実技講座 | ⑯ 幼・保・小の接続を意識した幼児教育講座 |
| ⑧ 特別支援教育講座Ⅰ | ⑰ 性と生の教育講座 |
| ⑨ 小学校授業づくり講座（算数） | 特設 特別支援教育基礎講座Ⅲ |
| ※ 他 特設「伝統文化教員体験教室」3講座 | |

令和5年8月3日(木)、4日(金)の2日間、盛岡市教育研究所公開講座を開催しました。今年度は、上記の17講座の他、

特設講座として、「特別支援教育基礎講座Ⅲ」田中ビネーVの実施と分析方法についての基礎講座」と「伝統文化教員体験教室」として、「邦舞」「茶道」「日本画」の4講座を開講し、多くの先生方に参加していただきました。その中から4つの講座の様子と、先生方の感想を紹介いたします。

【教育相談基礎講座】

今回は、岩手県教育委員会学校教育室から小山田秀次アドバイザーをお招きし、「保護者へのよりよい対応を求めて」いじめ対応を中心に」と題して講演をいただきました。

まずは、保護者の考えを傾聴し、それは事実か、推測かなど、話を整理とすることや、保護者の訴えから何に心を痛めているのか心情的整理をすること、組織的対応をしながら、対応の記録を残すことな

ど、聞き取りの際のポイントなどを丁寧に教えていただきました。また、講演後は、具体的なケースへの対応についてグループ協議を行い、講義の内容を参考にしながら各グループでよりよいいじめ対応について中身の濃い協議が行われました。

★参加者の感想★

・どのような保護者にたいしても敬意をもって、どのような保護者も子どもを心配し、子どもを大事に思っている、子どもを支援している、最大のパートナーだという姿勢をもって対応していくことが必要だと、改めて感じました。

・共感と同感の違いや傾聴することを意識していきたいと思えます。

【自殺予防教育講座】

今年度の自殺予防教育講座では、医師の鈴木りほ先生から、講演をいただきました。

子どもの自殺に対しては、現在、「伴走型支援」と「孤独対策」が求められることや、実際に希死念慮のある子と対話をする際の原則などについて教えていただきました。まずは、心配していることを伝えること、「死にたい」と思っているか率直に聞くこと、相

手の絶望的な気持ちを静かに聞き、受け止めること、喫緊の危険がある場合は、周囲と連携し、安全を確保することなど、具体的な方法について聞き、参加した先生方は大きく頷きながら、真剣な表情で学んでいました。

★参加者の感想★

・自傷についての対応について、モデルケースで考える事ができて良かったです。

【性と生の教育講座】

本講座では、非常に大切でありながら、どのように指導していけばよいか悩む先生方も多いと思われる「性教育」について、岩手県立大学の福島裕子先生に講義をいただきました。

講義の前半では、「性と生殖の健康と権利」について触れていただき、性と生殖には、心の同意や自分が決めることができる状態が大切なこと、また、海外の一歩進んだ教育事例を踏まえ、自分や相手を守るための性教育などについて教えていただきました。後半では、性虐待や愛着形成の課題から、生きることの難しさを感じている子どもたちについて、自分の価値観で子どもを見ず、子どもの目線に立って、子どもと同じ視点で考え、気持ちを受け止め、

子どもの安全基地になることが支援者として大切であることを教えていただきました。

★参加者の感想★

・思春期保健が大事とあらゆる所で言われているが、今後ますます関係機関や家族・地域で連携して取り組む必要性が更に認識出来る講演でした。

・問題を抱えている子どもの見えない心の内に働きかける事へのヒントを教えてください。ただいたと思えます。

【伝統文化教員体験教室「日本画」】

日本画の体験教室では、膠（にかわ）を使って自分で絵の具を作り、日本画へ色を塗る体験を行いました。下準備を大切に日本の技法や日本画独特の色合いのよさに心を弾ませながら、時間いっぱい集中して体験をする先生方の姿が数多く見られました。

★参加者の感想★

・初めて日本画を描きました。が、絵具を作るところから手間をかけていることを知りました。その分、自分で作った絵具の色が味わい深いものに感じられました。

・美術館で鑑賞するときに、ますます楽しくなりそうです。

ICT活用研修講座Ⅰ・Ⅱを振り返る

講師：「文部科学省 GIGA StuDx 推進チーム」

今年度は、文部科学省の「GIGA StuDx 推進チーム」から講師の先生をお招きし、2日間にわたってオンライン研修を開催する運びとなりました。

講座Ⅰでは、日常の学校教育における具体の活用事例や授業改善の方向性について、講座Ⅱでは、学校全体でICTを活用した取組を推進するための方途をテーマに、演習や小グループでの意見交流等が行われました。

今回はオンライン開催のメリットを生かし、参加者数に制限を設けることなく、受講を希望されたすべての先生方に参加いただくことができました。また、当日の参加・継続に関するトラブルも少なく、概ね予定通りの講座を開催することができました。

一方で、研修アンケートから見てきた課題は、参加する先生方のニーズの多様さです。「参考になった」という感想以外にも、「もっと実践的

な話を期待していた」「内容についていくのが大変だった」といった声が寄せられました。講師の先生によると、このような状況は全国的に見られる課題とのことでした。

児童生徒に確かな「情報活用能力」を育成するためにも、教員のICT活用に関するスキルアップは必須であり、今後はこれまで以上に、大規模な一斉研修だけでなく、『少人数』『短時間』で『継続的』に校内で行う小さな研修の積み重ねの重要度が増してきました。

当日の講座資料はTeamsからいつでもダウンロードすることが可能となっておりますし、市で導入している各種デジタル教材やソフトについても、サポートページにアクセスすると、豊富な実践事例や研修用コンテンツが提供されており、校内研修の充実に、お役立てください。

〈講座で紹介された・校内研修等に活用できる主な資料〉

【全国から寄せられた活用事例が紹介されている特設ウェブサイト「StuDX Style」】

- ① トップページ
- ② 各教科等での活用事例
- ③ STEAM教育等の教科等横断的な学習の取組事例

【情報モラル教育に活用できる学習コンテンツや事例の紹介】

- ④ 文部科学省「情報モラル教育ポータルサイト」

①	②	③	④
			

【YouTube「文部科学省/mextchannel」動画資料】

- ICTを活用した働き方改革の取り組み事例
- 「1人1台端末で学校が変わる！」
- ⑤ 小学校 編
- ⑥ 中学校 編
- ⑦ 小学校 編
- ⑧ 中学校 編

⑤	⑥	⑦	⑧
			

校内ICT活用推進のポイントは「少人数」「短時間」で「継続的」な研修の実施による情報の共有

令和5年度 盛岡市教育研究所第58回研究発表大会のお知らせ

令和6年1月5日(金)、教育研究所の「専門研究」「研究員研究」「委託研究」等の成果を発表する、教育研究所研究発表大会を開催します。

教育研究所では、市内のより多くの先生方が、夏に実施した公開講座や本発表大会に参加し、研修をしていただきながら、自身の指導力の向上に努めていただきたいと思いますと考えております。

なお、「体力向上研究員研究分科会発表」は「小中学校体力向上研修」を兼ねることから、悉皆研修となります。

1 日程及び会場

令和6年 1月5日 (金)	【全体研究発表・分科会研究発表】 都南公民館・キャラホール						
	12:30	13:00	13:10	14:30	14:45	16:25	16:30
	受付	開会行事	全体研究発表	移動	分科会研究発表	閉会行事	
	【体力向上分科会発表】 浜民運動公園総合体育館						
	13:00	13:30	13:40	15:50	16:00		
	受付	開会行事	研究発表・実技研修	閉会行事			

2 内容

(1) 全体研究発表

- ア 不登校児童生徒への対応に関する研究
- イ 小中学校におけるICT活用に関する研究

(2) 分科会研究発表

- ア 学力向上分科会(算数・数学)：算数・数学科における実践研究
- イ 学力向上分科会(外国語)：中学校外国語科における実践研究
- ウ 体力向上分科会：小中学校における「体力向上」に関する実践研究
- エ キャリア教育・先人教育分科会

小中学校9年間のキャリア教育の在り方の実践研究

小中学校9年間の系統性を踏まえ、教育課程に「盛岡の先人」を位置付けた具体的な実践研究

オ 研究指定校発表(中間発表)

発表資料の当日配布は行いません。12月20日(水)までに当研究所のホームページに各発表の資料を掲載する予定です。事前に印刷またはタブレット(盛岡市のGIGA端末)等にダウンロードの上、各自、御持参いただきますようお願いいたします。

★研究所HP <https://www.city.morioka.iwate.jp/kosodate/kyoiku/kyoikushisetsu/1037080/1037301/index.html>

お待ちしております。

▼10月、文部科学省は令和4年度の小中学校における不登校者数が過去最多の29万9千48人となったことを公表しました。▼こうした状況を踏まえ、「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化を図るため、「不登校・いじめ緊急対策パッケージ」が取りまとめられました。▼その中では、不登校の緊急対策として、文部科学省が3月に策定した「COLOLOプラン」の対策の前倒し、情報発信の強化が発表されました。▼COLOLOプランの中には、落ち着いた空間で学習・生活できる校内教育支援センター(スペシャルサポートルーム等)の設置促進が含まれています。▼教育研究所では、校内教育支援センターやひろばモリーオなどの不登校児童生徒の学びの場を対象とした「不登校児童生徒への対応に関する研究」を進めてきました。▼1月の研究発表大会では、不登校の研究を含む専門研究、研究員研究、委託研究等の発表を行います。先生方の多数の参加を

